

団体名

岐阜県可児市

助成金名：多文化共生のまちづくり促進事業

ジャンル

事業費総額 3,587 千円

教育・子ども

事業名

在住外国人のライフプランとキャリア支援事業

特徴

外国籍市民の在住年数の長期化に伴い、日本育ちの若者が増えていることから、若者が将来の夢が描けるようなライフプランニング、キャリア教育など様々な取り組みを実施した。

事業のポイント

◇日本育ちの子どもは親の情報の範囲内で進学後の進路を決めてしまうことが多く、選択肢が少ないため、自分の将来の夢を考えられるようなライフプランニングやキャリア教育を実施した。また、夢に向けて努力するきっかけ作りとして、演劇ワークショップなどを実施し、自己表現力や自己肯定感を高めた。

◇地域の中小企業は働き手不足が課題となっているが、地域人材である外国籍住民とのマッチングが難しい。そこで、企業にヒアリングを行い、求められる日本語能力を把握した。それを踏まえ外国籍住民向けに就労につながる日本語教室やガイダンスを行い、就労につなげた。

事業の背景・目的

◇可児市では市、市教育委員会、NPO法人可児市国際交流協会が協力して、未就学年齢から義務教育年齢を超えた子どもまでのきめ細かい教育支援を実施している。しかしながら、近年は在日年数の長期化に伴い、進学後に就労をする年代の若者が増えている。そこで、地元企業についての情報提供やマッチング、日本語教室、ガイダンスを実施することにより地域人材として育成し、就労につなげていく。

事業の概要

- 在住外国人のライフプランを考える研修やセミナーの実施
 - ライフプラン授業（6月21日、参加者：20人）
 - ライフプランニングと性教育（12月21日、参加者：21人）
 - ワークショップ
 - ①コミュニケーションワークショップ（10月26日、参加者：29人）
 - ②将来を考えるワークショップ（11月8日、9日、参加者：32人）
 - ③コミュニケーションワークショップ（1月14日、参加者：25人）
 - 加茂高校定時制での養護教諭へのヒアリング（12月7日）
- 在住外国人の就労につながるガイダンス、日本語研修、ビジネスマナー
 - 進路ガイダンス
 - ①市教育委員会主催進路ガイダンスにて「先輩の話」を実施（7月13日、参加者：約30人）
 - ビジネスマナー研修
 - ①ビジネスマナー研修（11月18日、参加者：18人）
 - ②加茂高校定時制マナー研修（12月7日、参加者：28人）
 - ③ビジネスマナー研修（1月20日、参加者13人）
 - 就労の日本語教室（12月1日～21日、1月7日～31日）
- 企業のニーズ調査や職場見学、職場体験及び企業説明会
 - フィリピンの青少年の就労事情ヒアリング（6月25日、参加者：6人）
 - シチズン時計株式会社 CSR 活動「シチズンファーストウォッチ作り」
 - ①シチズン時計会社へのレクチャー（8月22日、参加者：21人）
 - ア.「在住外国人の子どもの現状について」
小島祥美（愛知淑徳大学准教授）
 - イ.「可児市及び可児市国際交流協会の取組」
各務真弓（可児市国際交流協会事務局長）
 - ②シチズン時計社員と外国人生徒の交流会（8月23日、参加者：54人）
 - シチズン時計マニファクチャリング株式会社飯田殿岡工場 工場見学（12月7日、参加者：20人）
 - 企業のニーズ調査や職場見学、職場体験及び企業説明会の実施
 - ①外国人雇用を考える会に参加（5月28日）
 - ②産業フェアでの外国人雇用相談ブースの設置及び運営（11月4日）
 - ③可児の企業魅力発見フェアへの参加（11月12日、参加者：22人）
 - ④岐阜県立国際たくみアカデミーの仕事体験教室の見学（7月21日）



将来を考える演劇ワークショップ



シチズン時計（株）飯田殿岡工場見学 マイスターと交流

事業実施における工夫点・事業の成果等

必ずしも自分の意思で来日してきたわけではない10代の青少年は、親との同居に期待しながらも、学歴の分断の絶望や戸惑い、日本語や制度の壁に阻まれ、親子間の関係をうまく築けず、さらに絶望し居場所を見つけられないがために寂しさを抱えている人もいます。そうした精神状態を考慮し、モチベーションの維持として、日本語の強化とともに将来を考えるきっかけ作りをいろいろな形で実施した。お互いを知るためのコミュニケーションワークショップや、演劇手法を生かした将来を考えるワークショップは可児市文化創造センターの協力により、イギリスの劇団のファシリテーターと英語でコミュニケーションを取りながら言語を使わない表現方法を学んだ。ライフプランとして、お金について実際進学するとどのくらいお金が必要なのか、自分で稼ぐとどのくらい働く必要があるかを考えたほか、「性教育」も、母体の安全や性感染症の話ではなく「妊娠、出産」という将来を考えたライフプランとして捉え、5年後を考えることにより、今すべきことを考えるきっかけとなった。



ライフプランとしての性教育ワークショップ

シチズン時計(株)のCSR活動の受け入れと工場見学では、時計作り、社員さんのやりがい、時間の話などを聞き、また飯田殿岡工場の「マイスター」や若手技術者、外国籍社員さんとの交流により、「工場で働く」ことは単純作業だけでなく、「ものづくり」の意義や技術者としての誇りがあることが参加者に伝わった。

また、市内企業への就労につなげる取組みとして「企業フェア」に参加し、就労のための日本語指導やビジネスマナーなど、必要性を感じさせる場面を想定して実施した。

今後の課題・将来に向けての展望等

企業の多くは外国籍労働者を派遣社員や技能実習生などの短期的な労働者として捉えていることを知った。しかし、定住傾向である可児市の外国籍住民の性質を考慮すると企業に長期的な雇用を促すこと、そのためには企業へ多文化共生の理解を働きかけることが必要である。

本事業により、就労支援は市・企業・学校・NPO法人など、子どもの支援に関連する機関が連携して取り組まなければ十分な効果が見込めないと分かった。今後も関係機関と連携しながら、これから就労する若い世代の外国籍住民に対して自分の将来を考えられるような機会を提供し、可児市に住む外国籍市民が安定した職に就き、生活していけることを期待する。



「企業フェア」での様子

今までは企業の就労に向けた相談に対して受け身であったが、今後は職場の「多文化共生」にむけた意識改革に取り組んでいただくよう働きかけていきたい。

事業担当者のふりかえり

- ⇒ 本事業のさまざまな取組を通じ、人手不足による外国籍労働者雇用ということだけではなく、受け入れ企業側の職場環境の改善が必要ではないかと感じた。それは、日本語やビジネスマナーを習得しても「生まれ育ってきた文化背景の違い」を理解していないと誤解が生じるからである。終身雇用の考え方、会社員としての誇りや責任などの考え方に大きな違いがあることを理解し、仕事の意義ややりがいを伝え、企業側が「育てる」ということを強く意識していくことが重要だと感じた。